

厚生労働省「地域医療構想に関するワーキンググループ」
発表の「2025年の地域医療構想を踏まえた具体的対応方針
の再検証要請について」に対する当院の考え方

済生会和歌山病院 院長 松崎 交作

9月26日付厚生労働省発表の2025年の地域医療構想を踏まえた
具体的対応方針の再検証要請が公示されました。当院も再検証対象
病院として公表されています。

現在、全国的に病床数の過剰が言われており、厚生労働省は各県
の地域医療構想調整会議で病床数の減少が検討されてきました。し
かし、その議論に十分な進展が見られないために、この資料を公表
したと考えられます。今回の要請の元になった資料は、2017年6月
のわずか一ヶ月間のごく一部の診療実績や、他の病院に近接してい
るかどうか（おおむね20分以内）という基準で作成されたもので
あり、地域の情勢や各病院の果たしている役割を詳細に検討して作
成されたものではありません。厚生労働省の立場としては、この
資料は（1）全国の地域医療構想調整会議の機能を活性化させるため
のものであり、（2）再検証の要請対象病院とされた病院以外にも再
編・統合等が要請される公立・公的医療機関があり得ること、（3）
各県の地域医療構想調整会議が地域の実情を勘案して最終的な方向

性を決定する ためのものであり、現時点での病院の縮小、廃止等を求めるものではないことも同時に示されています。

当院でも、現状の医療環境、医療情勢の変化を分析し、病院のあり方について種々の検討を行っております。和歌山市には、和歌山県立医科大学、日赤和歌山医療センター、和歌山ろうさい病院 という高度急性期病院がありますが、すべての患者さまが最初から高度急性期病院での診療が必要なわけではありません。現在和歌山市には救急告示病院が 26 ありますが、当院は和歌山市の救急搬送全体の 10%を受入れています。骨折などの外傷疾患、急性期脳卒中、急性内科疾患など、主にこの地域の 2 次救急疾患を受入れることにより高度急性期病院の補完を行っております。また人工透析、回復期リハビリテーションなどの慢性期治療も行っております。和歌山県立医科大学からも地域医療に対する当院の役割を理解されたうえ、医師を派遣していただいています。

このような済生会和歌山病院の立ち位置を十分県当局に説明し、本当の意味で地域に根差した、親しんでいただける病院を目指し、今後も和歌山市の医療を支えてゆく病院として頑張っていく所存です。ので、ご安心ください。